

しなののうた

夜半醒めて外みる景色一色に絶へ間なく降る極月の雪



杉田小百合

しなののうた

常ならば日の出拝むは雪の朝あたり一帯楚楚としらじら

杉田小百合



しなののうた

初詣で人疎らなる善光寺線香の煙静かにのぼる



杉田小百合

しなののうた

神寂びて松の葉に積む白雪の清ら清らに善光寺映ゆ

杉田小百合



しなののうた

善光寺に御判頂戴厳かに頭に浮かびくる亡き夫の貌



杉田小百合